

《単位互換提供科目詳細》

* 科目 No. ◆2207

科目概要記入欄

1. 開設大学名	広島文化学園大学		科目開講 キャンパス	広島県民文化センターサテ ルキャンパスひろしま		
2. 科目名	正式科目名	産業社会研究 I			クラス名	
	副題	《グローバル社会で活躍できる人材育成》			配当年次	1年
	旧科目名					
	学問分野	番号	42	名称	複合系 国際関係	
	サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群	
3. 担当教員名	社会情報学部 グローバルビジネス学科 教授 松尾 俊彦					
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	後期		
6. 開講期間 曜日・時間	2014年10月3日(金) ~ 2015年1月23日(金) 金曜日 18:20 ~ 19:50					
個別開講日	1回目 10/3	2回目 10/10	3回目 10/17	4回目 10/24	5回目 10/31	6回目 11/7
	7回目 11/14	8回目 11/21	9回目 11/28	10回目 12/5	11回目 12/12	12回目 12/19
	13回目 1/9	14回目 1/16	15回目 1/23	16回目 /	試験日	/
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」 () ②. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 (総授業定員)	40 人 (50 人)		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		

10. 科目内容・ 授業計画	<p>本講義は、広島県が実施する「大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業」の一つで、「グローバル社会で活躍する人材育成のためのプログラム— チャイナ・プラス・ワン(China plus one)に対応した人材育成—」をテーマにしています。</p> <p>多くの企業が関心を持つアジア地域、とくに発展目覚ましい中国とベトナムに焦点を当て、まずは中国、ベトナムを知ることから始め、両国へ進出する企業の関係者から海外進出への苦労話や現地になじむ（現地化）ための苦労話等を聞かせてもらい、両国の理解を深めていきたい。決して高度な専門的に難しいことの理解だけでなく、身近な話題を用い両国を理解し関心を高め、グローバルマインド（グローバル感覚）を身に付けるきっかけを掴んでもらいたい。</p> <p>◇グローバル人材育成の意義</p> <p>第1回 プログラムのねらい — グローバル人材育成の必要性 講師：岡 隆光、磯田 朋子（広島文化学園大学）</p> <p>第2回 グローバル化する社会の理解 講師：岡本 弘道（県立広島大学）</p> <p>第3回 経済のグローバル化と企業戦略 講師：尾木 巧永（法政大学 MBA 客員教授）</p> <p>第4回 地元企業のグローバル化と人材育成 講師：大年 健二（呉信用金庫前理事長）</p> <p>◇中国経済の理解</p> <p>第5回 中国社会の発展と理解 講師：富田 和弘（県立広島大学）</p> <p>第6回 市場経済化する中国経済 講師：何 宗路（広島文化学園大学）</p> <p>第7回 中国（大連）経済で活躍する地元企業 — 三島食品 講師：野口 英善（三島食品）</p> <p>第8回 中国（大連）経済で活躍する日本人経営者 講師：白石 久充（大連毅信軟件有限公司）</p> <p>◇ベトナム経済の理解</p> <p>第9回 ベトナム社会の発展と理解 講師：朝妻 小津枝（ベトナム・タイムズ）</p> <p>第10回 ベトナム経済の理解 — ドイモイ政策と市場経済 講師：Nguyen Duc Lap（ゲン ドウック ラップ）（広島修道大学）</p> <p>第11回 ベトナム経済で活躍する日本人経営者 講師：川村 栄次（KAWA CORPORATION）</p> <p>第12回 ベトナム経済で活躍する地元企業 — 広島アルミニウム工業 講師：長里 清文（広島アルミニウム工業）</p> <p>第13回 ベトナム経済で活躍する企業人 講師：Tran Bich Thuy（チャン ビック トウイ）（JETRO 通訳）</p> <p>第14回 ベトナム経済で活躍する地元企業 — テンパール工業 講師：松本 直樹（テンパール工業）</p> <p>◇まとめ—グローバル人材育成の必要性</p> <p>第15回 公開討論会「いま必要なグローバル人材育成」 講師：産・学・官の関係者</p> <p>*なお、講師の都合により、講義内容、担当者や授業の順番が変更になる場合があります。</p>		
11. 試験・評価方法	<p>①ディスカッションへの参加度など平常の状況（30%）</p> <p>②毎回のふりかえりレポート（40%）</p> <p>③最終の課題レポート（30%）</p> <p>以上を総合的に評価する。</p>		
12. 別途負担費用	<p>平成 27（2015）年 3 月に中国（大連）、ベトナムで 10 日程度の海外現地研修を予定しています（希望者のみ）。渡航費用の半額（約 15 万円）、現地での生活費（約 5 万円）については自己負担になります。</p>		
13. その他特記事項			
14. サテライト科目 の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否